

南富良野短歌会

物置の棚の端っこに亡き父の大事にしてた水筒あつたよ

相川 敏治

夕食に出でできし煮豆その味は亡き母のもの妻引き継ぎて

阿部 巖

靴提げ期待に胸を躍らせて友らと逢える大学へ行く

大居 貞子

独り居に慣れし朝夕逝きし夫彼の地に根づきて夢にも出でず

鍛冶場 渉子

遠く澄む真白き大雪山悲しくも吾より若き汝の逝きせば

菊池 仁子

春燦燦四月八日の釈迦の日に鈴の音愛し母の御詠歌

後藤 敏江

萌える春一位の根本に福寿草残雪の中たじろぎもせず

小林 吉枝

舗装の上雪解け水がゆつくりと流れながらも春を呼んでる

佐藤 すみゑ

春の陽に鹿も散歩か向こう岸足並み止めて吾を見つめる

柴田 キク

草の芽のもぞもぞ動く気配して枯れ草のした水の音する

鈴木 セツ子

雪の路娘より届きし鉢物の二百の花数桜満開

鈴木 文代

授かりし齢の全てを夢を追ふ短歌を咲かせ土に生きなむ

津田 みね

夕茜つらら静かに聳して三月の空うすき水色

橋見 さえ子

憶年の時を重ねて近づける星とし聞けば長き命ぞ

三宅 スエ

冬の雨羽毛のような雪となり木々に真白き花となりおり

山内 千代

よく寝たる目覚めの顔は桜色春の気分に生気みなぎる

山田 千代

雨の修学旅行

5月11日から3泊4日で3年生29名が修学旅行に行きました。

出発式では天気が良かったものの、函館に近づくにつれて空が暗くなり、到着するころには雨が落ちてきました。その夜予定していた夜景は翌日に延期しました。

2日目の自主研修も朝から雨。七班に分かれ、五稜郭、元町、ベイエリアなど、

各班がそれぞれ立てた計画に沿って見学や体験を行いました。夜は函館山の夜景に挑戦しました。ロープウェイに乗って四

合目くらいまでは見えていた明かりが、次第に見えなくなり、頂上からの眺めは雲海でした。

3日目は昨日までの天気が嘘のように晴天の朝でしたが、ルスツに移動するにしがたい雲が増え、遊園地についたとたんに雨が降ってきました。途中雷で乗り物が一時止まったりもしましたが、

雨に濡れながら、時間ぎりぎりまで楽しみました。

最終日は登別伊達時代村に行きました。ようやく天候が回復しました。

「千載一遇」のスローガンで行われた修学旅行。雨にたたられましたが、誰一人として体調を崩すことなく、生徒たちにとっては一生忘れられない思い出になったと思います。

シリーズ 学校だより ⑦⑦

各学校の取り組みを紹介します。

▶▶南富良野中学校▶▶▶



唯一晴れ間がのぞいた登別時代村での記念撮影